

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	毎年3月31日 その他必要あるときは、あらかじめ公告して臨時に基準日を定めます。
期末配当の基準日	毎年3月31日
株主名簿管理人および 特別口座管理機関	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
郵便物送付先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問い合わせ先	0120-288-324 (フリーダイヤル) 受付時間 / 9:00~17:00 (土日祝日を除く)
公告方法	電子公告により行う。
公告掲載 URL	http://www.sbigroup.co.jp/investors/koukoku/ ※ただし、事故等やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行います。

ホームページの ご紹介

当社ホームページでは、最新のニュースリリースや決算情報をはじめ、決算説明会の模様を動画で配信するなど、株主・投資家の皆さま向けの情報を掲載しています。ぜひ、ご覧ください。



<http://www.sbigroup.co.jp/>

株券電子化に伴うご案内

■ 株式に関する住所変更等のお届け先およびご照会先について
証券会社に口座を開設されている株主さまは、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主さまは、上記の電話お問い合わせ先にご連絡ください。

■ 特別口座の株式について
2009年1月5日の株券電子化までに「ほふり(株式会社証券保管振替機構)」へ株券を預託されなかった株式につきましては、当社の株主名簿管理人であるみずほ信託銀行株式会社に開設した「特別口座」に移管させていただきました。

また、「特別口座」では、株式の売買ができませんので、様々な手続きを円滑に行うために、証券会社等に株主さまの口座を開設していただき、そちらの口座に株式をお振替いただきますようお願い申し上げます。なお、その際の株式お振替手続きにつきましては、口座を開設された証券会社宛にお問い合わせください。

〈免責事項〉

この報告書に記載されている、SBIホールディングス(株)および連結子会社の現在の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的事実のないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは各資料発表時点においてSBIホールディングス(株)の経営方針により、入手可能な情報およびSBIホールディングス(株)が合理的であると判断した一定の前提に基づいて作成したものです。したがって、主要市場における経済情勢やサービスに対する需要動向、為替相場の変動など、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている見通しとは、異なる結果となり得ることをご承知おきください。

SBIホールディングス株式会社

〒106-6019 東京都港区六本木一丁目6番1号
TEL.03-6229-0100
FAX.03-3224-1970
E-mail : inq-ir@sbigroup.co.jp



株主通信

SBIホールディングス株式会社

第12期中間報告書

2009年4月1日~2009年9月30日



SBIホールディングス株式会社
代表取締役 執行役員 CEO

北尾 吉孝

ごあいさつ

株主の皆さまには、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
平素は当社事業にご理解とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

当上半期における国内経済は、失業率が過去最高水準となるなど雇用情勢が悪化する中、個人消費においては政府による経済対策の効果もあり持ち直しの動きが見られ、企業収益は減少を続けながらも次第にその度合いは緩やかになりつつあります。しかし、世界経済では景気の下振れ懸念など、引き続き厳しい状況が続いております。

このような環境のもと、当社グループの当上半期連結業績は、売上高、営業利益においては前年同期と比べ減少したものの、当期純利益においては前年同期の赤字から回復し、上半期としては2期ぶりとなる最終黒字を確保いたしました。

当上半期の主な取り組みとしては、グループ内組織の再編成など経営効率向上へ向けた施策を継続して行うとともに、様々な事業分野で主力のインターネットを通じた取引チャネルに加え、対面（店舗）での取引チャネルを拡充し、「ネット」と「リアル」の融合を推進してまいりました。例えば、長期固定金利の住宅ローン商品を提供するSBIモーゲージでは、代理店方式により店舗網を拡大しており、各店舗においてはお客さまからのご相談にじっくりと対面でご対応することが可能となりました。さらに、複合メディアショップ運営大手の（株）ゲオや中古車買取最大手の（株）ガリバーインターナショナルなど、異業種企業との提携も強化しております。サービス・チャネルの一層の拡大を進めることで多様なお客さまのニーズに応え、ネット銀行・ネット生損保・カードなど新規事業の業績の飛躍へとつなげてまいります。

また、アセットマネジメント事業においては、中国株式市場が大きく回復する中、運用中の既存ファンドを通じて、最良の売却タイミングを見計らいながら利益の極大化を図っていくとともに、海外のJV（合弁）ファンド等を共同で設立した現地パートナーとの関係を活かし、アジアをはじめとする新興国に向けた、当社グループの「金融生態系」移出への布石も着実に打っております。

今後とも、当社事業の発展と企業価値の向上へ向けて、全役職員一同尽力してまいります。株主の皆さまにおかれましては、引き続きご指導ご鞭撻を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

当上半期の業績について

当上半期（2009年4月～9月）における当社グループの連結業績は、売上高632億円（前年同期比12.0%減）、営業利益38億円（同40.7%減）となったものの、当期純利益は8億円と前年同期の15億円の赤字から回復し、上半期としては2期ぶりの最終黒字を確保いたしました。

国内株式市場が本格的な回復に至っていない中、アセットマネジメント事業ならびにブローカレッジ&インベストメントバンキング（証券関連）事業では安定的に利益を確保いたしました。特にブローカレッジ&インベストメントバンキング事業は、好調なFX取引による収益貢献が大きく、営業利益60億円（前年同期比28.6%増）となり業績を牽引いたしました。また、アセットマネジメント事業では、国内IPO市場が低迷し厳しい事業環境が続く中、アジア地域の株式市場が日本・米国・欧州に先行して回復した恩恵を受け、21億円（同15.9%減）の営業利益を確保いたしました。

一方、上場子会社群においては、モーニングスターの営業利益は前年同期に比べ減益ながらも、前年度下半期比では140.5%増、ゴメス・コンサルティングは経費削減への取り組みを強化したことにより、当上半期に黒字転換を達成、SBIライフリビングは、事業再編による収益の多様化などが奏功し、当第2四半期（7～9月）に営業黒字（四半期ベース）に転換するなど、いずれも業績は底を打ち、回復に転じております。また、SBIベリトランスは当初予想数値を上回り、引き続き順調に業績を伸長させております。

なお、2009年2月に民事再生手続きにおける再生計画案が可決・認可された（株）ゼファー向け貸付金に対する同社との訴訟に関する和解成立などにより、特別損失として14億円の貸倒引当金繰入額を計上しております。今後、（株）ゼファー向け貸付金の担保不動産の売却が進むことから、同社への貸付金の回収も促進されるものと考えております。

■ 上半期決算のポイント

POINT ①

当期純利益は、前年同期の赤字から回復し、上半期としては2期ぶりとなる最終黒字を確保

POINT ②

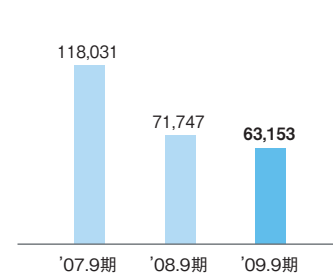
国内株式市場が本格的な回復に至っていない中、アセットマネジメント事業ならびにブローカレッジ&インベストメントバンキング事業が安定的に利益を確保

POINT ③

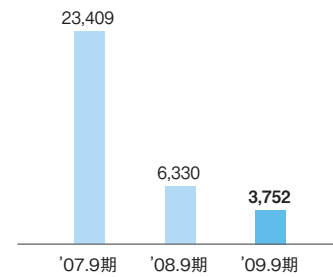
（株）ゼファー向け貸付金に対する貸倒引当金繰入額14億円を特別損失に計上

上半期決算ハイライト

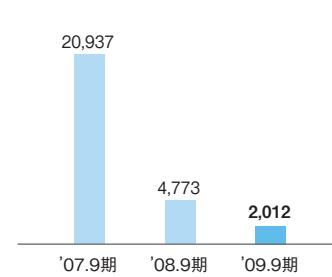
売上高 (百万円)



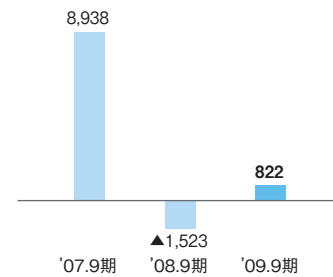
営業利益 (百万円)



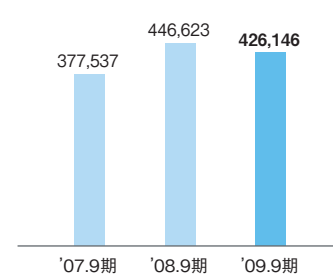
経常利益 (百万円)



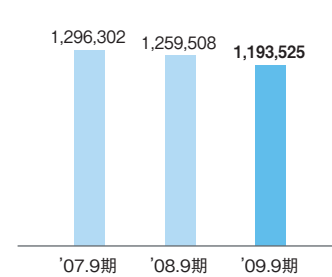
純利益(純損失) (百万円)



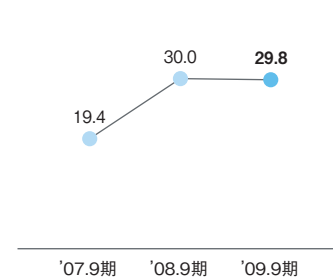
純資産 (百万円)



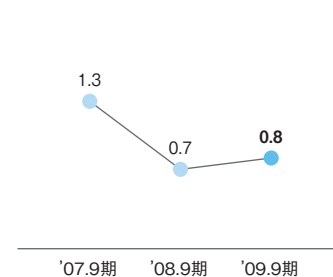
総資産 (百万円)



自己資本比率 (%)



PBR(株価純資産倍率) (倍)



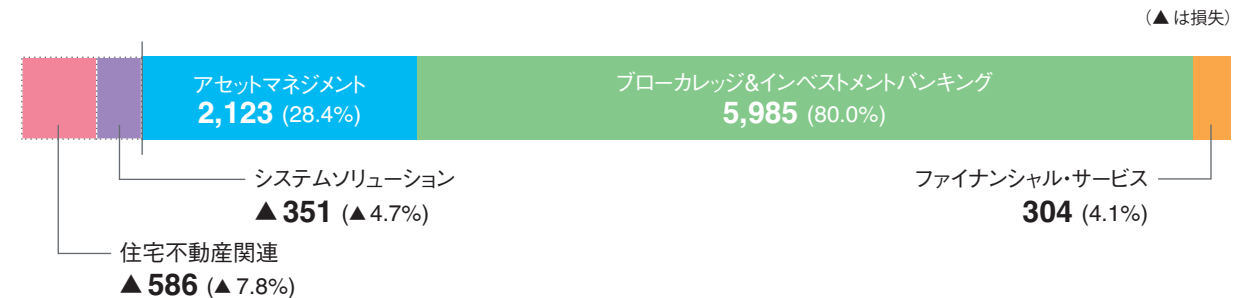
PBR = $\frac{\text{各期末当社株式東証終値}}{\text{各期末1株当たり純資産}}$
 (2009年9月末当社株式東証終値:17,760円)

セグメント別業績の概況

セグメント別業績の推移 (百万円)

	売上高			営業利益 (▲は損失)		
	2009年3月期 第2四半期 連結累計期間	2010年3月期 第2四半期 連結累計期間	構成比	2009年3月期 第2四半期 連結累計期間	2010年3月期 第2四半期 連結累計期間	構成比
■ アセットマネジメント	8,737	12,118	18.5%	2,525	2,123	28.4%
■ ブローカレッジ&インベストメントバンキング	26,952	26,623	40.6%	4,654	5,985	80.0%
■ ファイナンシャル・サービス	11,145	11,962	18.2%	755	304	4.1%
■ 住宅不動産関連	23,846	12,565	19.2%	1,349	▲ 586	▲ 7.8%
■ システムソリューション	2,956	2,310	3.5%	▲ 241	▲ 351	▲ 4.7%
小計	73,638	65,580	100.0%	9,042	7,475	100.0%
連結消去及び全社費用	(1,890)	(2,427)	-	(2,712)	(3,723)	-
合計	71,747	63,153	-	6,330	3,752	-

セグメント別営業利益の構成比 (百万円)



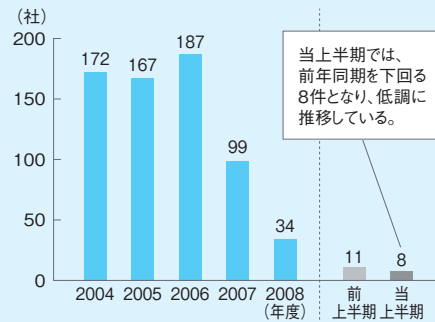
アセットマネジメント事業

IT・バイオ・パイアウト等のファンド運用、投資商品の組成、および中国やインドなど成長性の高い海外市場へ投資するベンチャーキャピタル・ファンドの設立等

決算のポイント

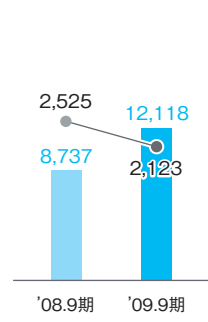
- 国内IPO（新規上場）件数が伸び悩み、厳しい事業環境が続く中、中国企業への投資を行っているNew Horizon Fund（シンガポールの政府系投資会社、TEMASEKとのJVファンド）が継続的に収益に貢献し、営業黒字を維持しました。
- 当上半期の投資実行額は、310億円となりました。8月にはベトナムの商業銀行（ティエン・ホン銀行）の株式をグループ合算で20%取得するなど、海外有望企業への投資も積極的に行っております。

国内の新規上場会社数の推移



出所：各取引所

売上高(百万円)
営業利益(百万円)



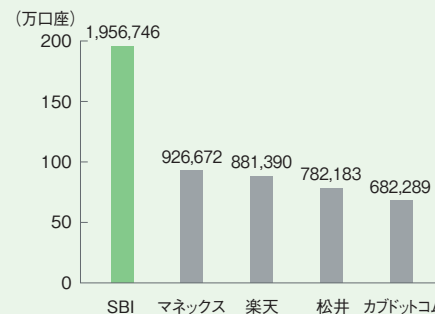
ブローカレッジ&インベストメントバンキング事業

SBI証券を中心に「ネット」と「リアル」の融合を図りながら展開する総合証券業務等

決算のポイント

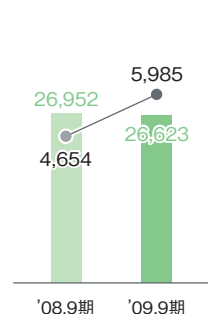
- SBI証券の業績は、営業収益は減少したものの、FX取引が好調に推移していることから、営業利益は75億円（前年同期比17.1%増）となりました。
- SBI証券の当上半期での獲得口座数は約9万口座となり、2009年9月末現在の口座数は約195万口座と、同業他社を大きく上回っております。
- SBIリクイディティ・マーケット（FX取引の市場機能を提供）へは、2009年8月に日興リアル証券も接続。さらなる流動性の拡大を図っていきます。

主要オンライン証券の口座数比較（2009年9月末現在）



出所：各社ホームページ等公表資料より当社にて集計

売上高(百万円)
営業利益(百万円)



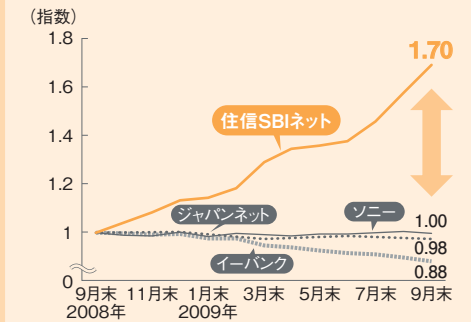
ファイナンシャル・サービス事業

金融分野における幅広い商品・サービスを、インターネットを通じて提供する事業。2007年度以降、ネット銀行・ネット損保・ネット生保が相次いで開業

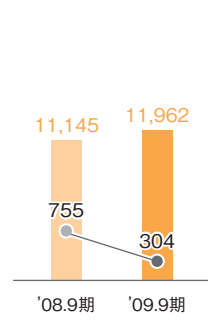
決算のポイント

- マーケットプレイス事業では、金融系サービスサイトの取引件数が前年同期比11.4%増の47万6,000件と順調に推移し、売上高も拡大しました。
 - 住信SBIネット銀行は、口座数・預金量ともに開業時目標を大きく前倒して達成しております。前期の第4四半期以降、引き続き四半期ベースでの黒字を達成しており、通期での持分法投資損益（営業外損益）の大幅改善が期待されます。（※）
- （※）住信SBIネット銀行は持分法適用関連会社であるため、営業損益には含まれておりません。

インターネット専業銀行4行の預金残高指数の推移



売上高(百万円)
営業利益(百万円)



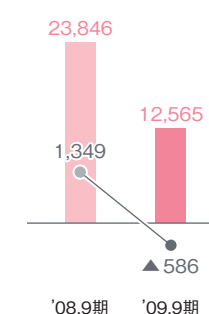
住宅不動産関連事業

住宅ローンの貸出・取次業務、不動産物件への投資・不動産開発、および各種生活関連比較サイトの運営・生活関連商品の提供等

決算のポイント

- 金融環境の低迷および持続する不動産市場収縮の影響等により、売上高は前年同期比47.3%減となり、6億円の営業損失を計上しました。
- 住宅ローン商品「フラット35」を業界最低水準金利で提供するSBIモーゲージは、実行残高が2009年7月に5,000億円を超え、同年9月末には5,825億円と急拡大しております。

売上高(百万円)
営業利益(百万円)



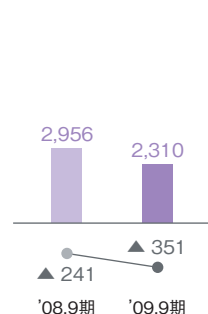
システムソリューション事業

金融機関向けシステムソリューションの提供・開発・運用サービス等

決算のポイント

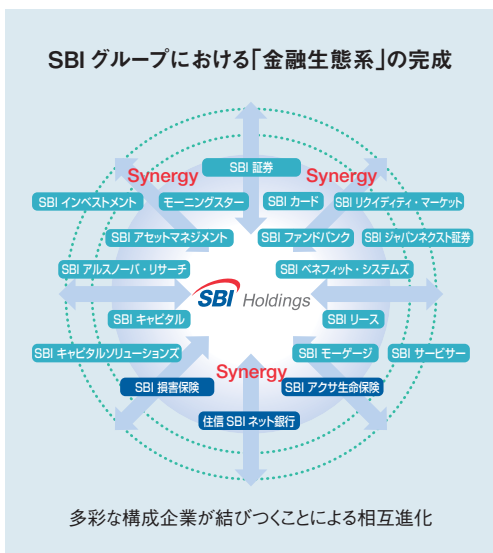
- SBIネットシステムズの業績は、当初予想数値を下回り、セグメントにおける営業損失幅も、前年同期と比較して拡大いたしました。事業再構築や本社移転によるコスト削減等を進めており、早期の業績回復を図っております。

売上高(百万円)
営業利益(百万円)



企業生態系とは？

お客さまのニーズが多様化したインターネット時代において、顧客満足度を高め、競争優位性を実現するためには、組織戦略上の「仕組みの差別化」が不可欠であるとSBIグループは考えています。そして、様々な金融サービスを提供するグループ各社が有機的に結合し、シナジーを発揮することで金融ワンストップサービスを提供できる「企業生態系」の形成に尽力してきました。



SBIの更なる挑戦

1 グループシナジーの追求

SBIグループでは今後、これまで作り上げてきた「企業生態系」を最大限に活かして、グループ内のシナジー効果を一層追求していきます。

グループシナジーの例として、住信SBIネット銀行とSBI証券では、両社の口座開設手続きが同時に行え、また「SBIハイブリッド預金」の預金残高がSBI証券の買付余力に自動的に反映される画期的なサービスがご利用できます。すでにSBI証券の口座開設申込者の約5割が住信SBIネット銀行口座を同時に開設しており、相互にシナジーが発揮されています。

2 ネットとリアル融合、真の金融ワンストップサービスへ

お客さまが金融商品を選ぶ際、インターネットをチャネルとしたサービスの提供に加え、じっくり対面で相談したいというケースもあることから、今後は「ネット」と「リアル」を融合したサービスの提供が求められると考えています。

例えば、すでにSBI証券の全国23本支店や、SBIモーゲージの全国43店舗の「SBI住宅ローンショップ」を通じたリアルチャネル展開を進めていますが、今後は様々な金融商品をワンストップで取り扱う「SBIマネープラザ」を通じて本格的に展開していきます。

インターネット金融のSBIグループが、リアルチャネルに本格進出

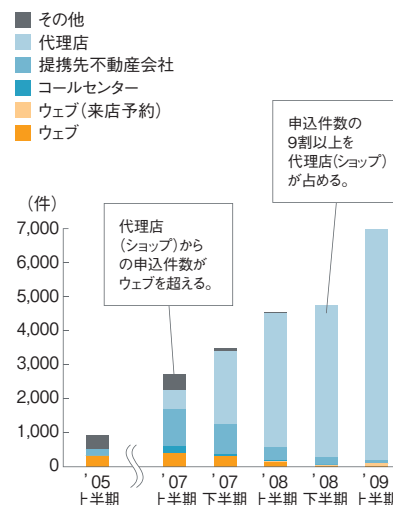
SBI住宅ローン／SBIマネープラザ 出店 | グループ内外の金融商品・サービスをトータルに販売するリアル店舗

SBIホールディングスの子会社であるSBIモーゲージは、SBIグループ内外の金融商品・サービスをトータルに販売する対面型店舗として、「SBI住宅ローン／SBIマネープラザ」の1号店を2009年7月、千葉県柏市にオープンいたしました。また、8月には川崎店と銀座店、9月には立川店と名古屋駅前店と新店舗を相次いで出店しています。

「SBI住宅ローン／SBIマネープラザ」は、SBIグループの特徴である低価格と利便性に加え、SBIグループ以外の金融機関の商品も積極的に取り扱うことにより、多くの金融商品の中から、お客さま一人ひとりに対して最適な金融商品を提供できる、「金融ワンストップサービスの実現」を目指しています。



SBIモーゲージのチャネル別申込件数推移



当店は住宅ローンを中心に、SBIグループ各社を含む提携企業の様々な金融商品やサービスを提供する総合金融ショップとして、2009年8月にオープンいたしました。

SBIグループといえばインターネット完結型のモデルをイメージされる方も多いと思いますが、マイホーム購入に係る住宅ローンに関しては、一生に一度の買い物ということもあり、店舗での来店相談を希望されるお客さまも多数いらっしゃいます。

商品のメリットを正確にお伝えすることはもちろん、お客さまの疑問や不安を解消できるよう懇切丁寧な説明を心がけ、安心して住宅を購入いただけるよう日々業務に取り組んでおります。

また、住宅ローンを組む際は、生命保険の見直しや資産運用等を始める絶好のタイミングともいえます。実際に、当店の生命保険無料診断サービスを利用され、住宅ローンだけでなく家計の見直しができたと喜ばれるお客さまもいらっしゃいます。

これからもより多くのお客さまに満足していただけるよう、一層努力していきたいと思っております。

連結財務諸表

連結貸借対照表(要約) (百万円)

科目	前連結 会計年度末 2009.3.31	当第2四半期 連結会計期間末 2009.9.30	科目	前連結 会計年度末 2009.3.31	当第2四半期 連結会計期間末 2009.9.30
資産の部			負債の部		
流動資産	851,408	953,120	流動負債	623,448	729,233
現金及び預金	127,123	117,426	短期借入金 POINT ①	54,658	97,587
営業投資有価証券	99,029	100,174	1年内償還予定の社債 POINT ②	41,480	50,320
預託金	266,365	322,173	信用取引負債	146,270	142,033
信用取引資産	180,800	263,118	受入保証金	258,068	297,441
その他	178,088	150,228	その他	122,970	141,851
固定資産	224,685	235,566	固定負債	29,193	30,925
有形固定資産	8,577	10,758	特別法上の準備金	7,253	7,219
無形固定資産	145,892	148,464	負債合計	659,894	767,379
投資その他の資産	70,214	76,344	純資産の部		
繰延資産	3,139	4,837	株主資本	360,456	359,675
			評価・換算差額等	▲ 6,937	▲ 3,883
			新株予約権	11	11
			少数株主持分	65,808	70,343
			純資産合計	419,338	426,146
資産合計	1,079,233	1,193,525	負債純資産合計	1,079,233	1,193,525

POINT ①

2009年9月に行った300億円の普通社債の償還を、自己資金のほか、取引金融機関からの一時的な借入金でまかなったことにより、短期借入金が増加しました。

POINT ②

2009年9月に300億円の普通社債を償還した一方で、ユーロMTNプログラムに基づき、同年4月から9月にかけて計7回、総額500億円の社債を発行しました。

連結損益計算書(要約) (百万円)

科目	前第2四半期 連結累計期間 2008.4.1~2008.9.30	当第2四半期 連結累計期間 2009.4.1~2009.9.30
売上高	71,747	63,153
売上原価	33,500	28,274
売上総利益	38,246	34,879
販売費及び一般管理費	31,916	31,126
営業利益	6,330	3,752
営業外収益	1,822	524
営業外費用 POINT ①	3,379	2,264
経常利益	4,773	2,012
特別利益 POINT ②	12,161	1,174
特別損失 POINT ②	15,659	2,113
税金等調整前四半期純利益	1,275	1,074
法人税等	3,947	1,338
少数株主損失(▲)	▲ 1,148	▲ 1,086
四半期純利益又は四半期純損失(▲)	▲ 1,523	822

POINT ①

持分法適用関連会社である住信SBIネット銀行が前年同期の赤字から当上半期は黒字に転換し、持分法による投資損失が減少したことなどにより、営業外費用は前年同期に比べ33.0%減少しました。

POINT ②

前年同期においては、民事再生手続き開始の申し立てを行った(株)ゼファー株式会社に対して、関係会社株式売却損94億円を特別損失として計上した一方で、E*TRADE Korea株式の譲渡に伴い、104億円の特別利益を計上しました。

会社概要・株式の状況

連結キャッシュ・フロー計算書(要約) (百万円)

科目	前第2四半期 連結累計期間 2008.4.1~2008.9.30	当第2四半期 連結累計期間 2009.4.1~2009.9.30
営業活動によるキャッシュ・フロー POINT ①	▲ 3,414	▲ 52,149
投資活動によるキャッシュ・フロー POINT ②	▲ 1,840	▲ 12,816
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 3,430	55,205
現金及び現金同等物に係る換算差額	278	▲ 1,153
現金及び現金同等物の増減額(▲は減少)	▲ 8,406	▲ 10,914
新規連結等に伴う現金及び現金同等物の増加額	1,953	78
現金及び現金同等物の期首残高	159,007	126,312
現金及び現金同等物の四半期末残高	152,553	115,477

POINT ①

SBI証券を連結しているため、証券会社特有の勘定である信用取引資産および信用取引負債の増減による支出ならびに顧客分別金信託の増加による支出が大きく影響し、営業活動によるキャッシュ・フローはマイナスとなっています。

POINT ②

事業拡大が続く住信SBIネット銀行が実施した増資引受などによる「投資有価証券の取得による支出」が大きく影響し、投資活動によるキャッシュ・フローはマイナスとなっています。

会社概要 (2009年9月30日現在)

社名	SBIホールディングス株式会社
英文表記	SBI Holdings, Inc.
本社	東京都港区六本木一丁目6番1号
事業内容	株式等の保有を通じた企業グループの統括・運営等
設立	1999年7月8日
資本金	55,237百万円
従業員数	連結2,561名 単体205名

役員 (2009年9月30日現在)

代表取締役 執行役員 CEO	北尾 吉孝
取締役 執行役員 CFO	澤田 安太郎
取締役 執行役員	平井 研司
取締役 執行役員	中川 隆
取締役 執行役員	朝倉 智也
取締役 執行役員	沖田 貴史
取締役 執行役員	円山 法昭
取締役 執行役員	森田 俊平
取締役	井土 太良
取締役	城戸 博雅
取締役	木村 紀義
取締役	田坂 広志
取締役	夏野 剛
常勤監査役	渡辺 進
監査役	平林 謙一
監査役	島本 龍次郎
監査役	藤井 厚司

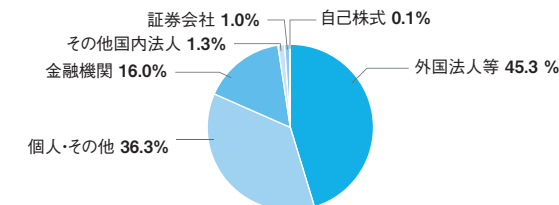
株式の状況 (2009年9月30日現在)

発行可能株式総数	34,169,000株
発行済株式総数	16,772,133株
株主数	197,448名

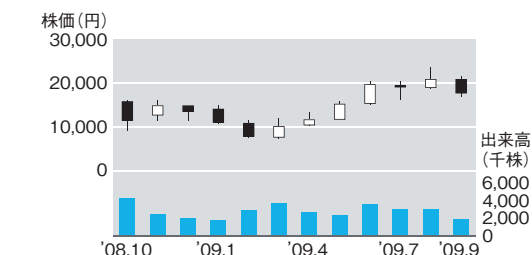
大株主(上位10名)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
シービーニューヨーク オービス エスアイシーアーヴィー	1,606,023	9.6
シービーニューヨーク オービス ファンズ	1,490,861	8.9
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	760,759	4.5
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	466,598	2.8
ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン エス エル オムニバス アカウント	355,755	2.1
クレディスイス セキュリティーズ ヨーロッパリミテッド ビービー セクイント フントリーティー クライアント	350,000	2.1
オーエム04 エスエスピークライアント オムニバス	321,543	1.9
北尾 吉孝	305,446	1.8
バンク オブ ニューヨーク ジーシーエム クライアント アカウンツ ジービー アールイーシー アイティーアイシー	165,442	1.0
リーマン ブラザーズ インターナショナル(ヨーロッパ)	156,749	0.9

所有者別株式分布状況



株価/出来高の推移



■ アセットマネジメント事業	投資事業組合等の管理・運用	SBIインベストメント(株) SBIブロードバンドキャピタル(株) ソフトレンドキャピタル(株) SBIキャピタル(株) SBIキャピタルソリューションズ(株) SBI-HIKARI P.E.(株)
	国内外のベンチャー企業等への投資	SBIホールディングス(株) SBI KOREA HOLDINGS CO.,LTD. SBI VEN CAPITAL PTE. LTD.
	投資顧問・その他事業	SBIアセットマネジメント(株) SBIバイオテック(株) SBIアラプロモ(株)
■ ブローカレッジ&インベストメントバンキング事業	証券関連事業等	(株)SBI証券 SBIジャパンネクスト証券(株) SBIファンドバンク(株) SBIリクイディティ・マーケット(株)
■ ファイナンシャル・サービス事業	マーケットプレイス ファイナンシャル・プロダクト ファイナンシャル・ソリューション事業等	SBIホールディングス(株)(ファイナンシャル・サービス事業各事業部) モーニングスター(株) ゴメス・コンサルティング(株) SBIベリタランス(株) SBIリース(株) SBIポイントユニオン(株) SBIマーケティング(株) オートックワン(株)
	新規事業	住信SBIネット銀行(株) SBI損害保険(株) SBIアクサ生命保険(株) SBIカード(株)
	不動産事業	SBIホールディングス(株)(不動産事業本部)
■ 住宅不動産関連事業	不動産金融事業	SBIモーゲージ(株) (株)セムコーポレーション
	生活関連ネットワーク事業	SBIライフリビング(株) ホメオスタイル(株)
	■ システムソリューション事業	システム企画・設計・運用業務等

株主優待のポイントを、まだ獲得されていない株主さまへ

2009年3月31日現在の株主名簿に記載または記録された株主さまを対象とし、当社子会社SBIポイントユニオンが運営するポイントサイト「EGサテライト」で利用可能なポイントを贈呈する株主優待を実施いたしました。

ポイント「ありがトン」のポイント獲得申込み期間は2010年5月31日までとなっておりますので、なるべくお早めにポイント獲得の手続きを行っていただきますようよろしくお願いいたします。

対象株主さま：2009年3月31日現在の当社の株主名簿に記載または記録された株主の皆さま

■ 優待内容

SBIポイントユニオンが発行しておりますポイント「ありがトン」を、以下の基準により贈呈いたします。

所有株式数(2009年3月31日現在)	贈呈ポイント数
1株以上 10株未満	500 ポイント
10株以上 30株未満	1,000 ポイント
30株以上 50株未満	3,000 ポイント
50株以上 100株未満	5,000 ポイント
100株以上 300株未満	10,000 ポイント
300株以上	30,000 ポイント

■ ポイント「ありがトン」の獲得方法

株主優待専用ページにアクセスします。
<http://yutai.sbigroup.co.jp>

「EGサテライト」のログインIDとパスワードでログインします。
※「EGサテライト」の会員登録がお済みでない場合は事前に新規会員登録が必要になります。

株主番号、郵便番号、氏名を入力します。

所有株式数に応じて、EGサテライトのポイント通帳に優待による贈呈ポイントが反映され、ポイントの利用が可能となります。

■ 受付期間

2009年6月26日～2010年5月31日

※ポイント「ありがトン」の有効期限は、EGサテライトのポイント通帳に反映されてから3年間です。

■ 「ありがトン」の現金への交換について

全国の金融機関(ゆうちょ銀行は除く)を通じて1,000ポイント＝800円から現金に交換できます。さらに、住信SBIネット銀行口座をご指定いただきますと、交換手数料(160円)が無料となる上、500ポイント＝425円からの交換が可能となり、他の金融機関に比べておトクな交換レートで便利に現金に交換いただけます。

●現金交換などポイントのご利用はこちら

EGサテライト <http://egsatellite.jp/>

※現金への交換レートについては予告なく変更される場合がございますので、あらかじめご了承ください。

■ お問い合わせ

SBIホールディングス株式会社 株主優待 専用コールセンター

TEL.03-6864-1664

[受付] 月～金曜日 9:00～18:00(祝日を除く)

株主優待専用ページ <http://yutai.sbigroup.co.jp>

※ポイント獲得手続きの際に必要な株主さまの『株主番号』は、本郵便物に同封されております。株主さまのご住所・ご氏名が記載された「宛名カード」の右下に記載されている9桁の番号になります。